

農山村の地域資源を次世代に

「都市と農山村をつなぐボランティア活動」

# とちぎ夢大地応援団

令和2年度とちぎ夢大地応援団カレッジ活動



▲茂木町深沢地区



▲日光市土呂部地区

令和2年度とちぎ夢大地応援団意見交換会



▲意見交換会

令和2(2020)年度第1回とちぎ夢大地応援団カレッジ活動が、9月に茂木町深沢地区で、第2回目の活動は、10月に日光市土呂部地区で行われました

また、とちぎ夢大地応援団意見交換会が、7月にとちぎアグリプラザで行われました。

○○○○○○○○○○○○○○○○ (2～4頁に詳細)

はばたけ夢大地

第29号 2020/11

とちぎ夢大地応援団事務局  
(公財)栃木県農業振興公社  
栃木県農政部農村振興課



▲開会式の様子

## 茂木町深沢地区でいちご苗の定植作業を実施しました！

茂木町の「美土里農園」で、第1回「とちぎ夢大地応援団カレッジ活動」を行いました。

宇都宮市の文星芸術大学の学生ら6人と関係者が、観光農園用ハウスでいちご苗の定植作業などを体験しました。カレッジ活動は、次世代を担う若い世代に、農作業や農村資源の保全活動

を体験してもらい、農業・農村の果たす役割や重要性についての理解促進を図ることが目的です。県内の大学や短期大学生などを対象に、毎年各種の活動を行っています。

この日、農作業を体験したのは、同大学美術学部学科で、それぞれマンガ、デザイン、総合造形を専攻している留学生でした。



▲いちご苗の定植作業

農園の職員から作業上の説明を受けた後、観光農園用のハウスに入って、県の新しいオリジナル品種「とちあいか」の苗の定植に挑戦しました。

慣れない作業に苦労しながらも、1株ずつ丁寧に植え付けていました。

マンガ専攻のイン・ケツメイさんは、「腰が痛くなって農作業の大変さがよくわかった」と感想をいただきました。



▲地場産食材を使ったお弁当でお昼ご飯

## 文星芸術大学の参加した皆さんの声……アンケートから

- ◆いちごの管理作業を楽しく勉強しました。また、参加したいです。
  - ◆いちごの管理を覚えました。
  - ◆マンガのネタと楽しい体験を得ることができました。
  - ◆いい体験をし、すごく勉強になりました。
  - ◆いちごの栽培は容易ではないことを学びました。
- ※留学生の皆さんが、日本語で書いてくれました。

## とちぎ夢大地応援団カレッジ活動報告(令和2年10月18日実施)



▲傾斜面での作業でした

となるカヤを採る「茅場」が残る数少ない地域です。同会は「茅ボッチ」作りなどをとおして土呂部地区の里山風景や草原植物を守る活動を行っています。

刈り取ったススキなどを束ねて円錐形に立てる作業を行い、午前中をかけておよそ150個の茅ボッチを完成させました。

## 日光市土呂部地区で、茅ボッチ作りを実施しました！

第2回カレッジ活動を文星芸術大学生4人、宇都宮クラーク高等学院生17人、関係者9人が参加し、「日光茅ボッチの会」の皆さんと一緒に活動を行いました。

土呂部地区は高齢化、過疎化が進んでいますが、屋根の材料や牛馬の飼料



▲完成した茅ボッチと記念撮影

## とちぎ夢大地応援団カレッジ活動に参加して(宇都宮クラーク高等学院)



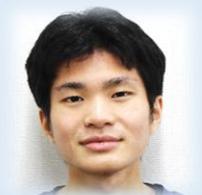
私は、このような本格的なボランティア活動に参加するのは初めてだったので少し不安もありましたが、この茅ボッチ作りをとおして色々なことが学べました。人との関わり、仲間との絆、農作業の大変さ、茅ボッチを完成させた達成感、それ以外にも沢山の経験を得ることができました。

情報ビジネス科2年 名越 璃月



茅ボッチの会の皆様には、分かりやすく指導していただいたり、一緒に作ってくださったので、楽しく活動することが出来ました。少しの時間でしたが、思い出に残る良い経験になりました。

情報ビジネス科2年 床井 祐輝



仲間と行う作業の楽しさや自然を感じるという学校生活では味わうことのできない体験をしました。また、環境保全の大変さも学ぶことができ、とても意味のある活動だと感じました。今回の活動で感じたことを他の人に伝えることで、たくさんの人が茅ボッチの魅力を感じてくれたらうれしいです。

情報ビジネス科2年 大貫 涼介



私は、初めて茅ボッチ作りをしましたが、役員の方々が優しく教えてくださったので、楽しく制作することができました。役員の方から聞いて驚いたことは、この40年ほどで日光の草原がとても少なくなったという事です。そこで草原を守るためには定期的に手入れをする事が大切だと聞きました。

情報ビジネス科1年 加納 光

## 令和2年度とちぎ夢大地応援団意見交換会

(公財) 栃木県農業振興公社は7月17日、宇都宮市のとちぎアグリプラザで「とちぎ夢大地応援団意見交換会」を開催しました。

応援団活動を受け入れてきた地域組織や行政関係者らが一堂に会し、今後の円滑な活動やコロナ禍での活動の在り方などを議論しました。

「とちぎ夢大地応援団」は、都市住民のボランティアが農山村地域に入り、地元住民との協働活動を通して地域活性化を支援する取組です。耕作放棄地の草刈りや獣害防止柵設置など人手が必要な作業に力を発揮しています。また、参加者同士の交流の場として、農業・農村の理解を深めてもらう機会にもなっています。

関係者が会しての意見交換会は今回が初めてで、地域の活動組織をはじめ、市町農政関係者など30名が参加しました。



▲やみぞあづまっぺ協議会 屋代幸子氏



▲和田用水ホタルの里の会 若林正夫氏

事例紹介として、応援団活動が地域おこし活動につながった大田原市の「やみぞあづまっぺ協議会」と、水路整備などを進める鹿沼市の「和田用水ホタルの里の会」が活動内容を発表しました。応援団を通して実現した商品開発や、交流イベントの様子などを報告しました。

参加団体からは、高齢化や過疎化などの共通の悩みの他、情報発信やボランティア募集の方法、新型コロナウイルス感染症の広がり、人が集まりにくくなっている状況などが報告され情報を共有しました。

また、今後の活動における新型コロナウイルス感染症対策などについて話し合いました。

### とちぎ夢大地応援団

事務局 (公財) 栃木県農業振興公社  
農政推進部

栃木県農政部  
農村振興課

〒320-0047 栃木県宇都宮市一の沢2-2-13  
☎ 028-648-9515 FAX 028-648-9517

とちぎ夢大地応援団

検索

← クリック

〒320-8501 栃木県宇都宮市塙田1-1-20  
☎ 028-623-2334 FAX 028-623-2337